第４章　有価証券

４－１　売買目的有価証券の期末評価

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　時価評価の内容を理解しよう！

②　時価評価に関する仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「有価証券」勘定（資産）

「有価証券評価益」勘定（収益）

「有価証券評価損」勘定（費用）

売買目的有価証券は決算時に帳簿価額を**時価**に修正します。これを売買目的有価証券の**期末評価**（**評価替え**）といいます。時価の金額に修正しますので**時価法**（じかほう）ともいわれます。この処理は**決算整理**として行われます。

帳簿価額より時価が高い場合には、その差額（評価差額といいます）を「**有価証券評価益**（ゆうかしょうけんひょうかえき）」勘定（**収益**）に計上します。また、帳簿価額より時価が低い場合には、その差額を「**有価証券評価損**（ゆうかしょうけんひょうかそん）」勘定（**費用**）に計上します。

取得原価 ＜ 時価（**高く評価**） → 有価証券評価**益**
取得原価 ＞ 時価（**低く評価**） → 有価証券評価**損**

例題４－１　売買を目的として取得したA社株式（取得原価1,600円）の期末における時価は1,700円であった。

決算整理前残高試算表（一部）

有　価　証　券	**1,600**		

① 決算整理

借 方 科 目	金　額	貸 方 科 目	金　額
有　価　証　券	**100**	**有 価 証 券 評 価 益**	**100**

有価証券評価損益：時価1,700－取得原価1,600＝100

② 決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

有　価　証　券	1,700	有 価 証 券 評 価 益	100

例題４－２　**売買を目的として取得したB社社債（取得原価9,700円）の期末における時価は9,500円であった。**

決算整理前残高試算表（一部）

有　価　証　券	**9,700**	

① 決算整理

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
有価証券評価損	**200**	**有　価　証　券**	**200**

有価証券評価損益：取得原価9,700－時価9,500＝200

② 決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

有　価　証　券	9,500	
有価証券評価損	200	

第４章　有価証券　問題

問題4-1　以下の取引に関して、仕訳を行いなさい。

①　決算において、売買目的として保有する東部商事株式会社株式30株について、時価によって評価する。なお、帳簿価額は１株6,000円、時価は１株5,800円であった。
②　決算において、売買目的として保有する南部商事株式会社株式50株について、時価によって評価する。なお、帳簿価額は１株4,200円、時価は１株4,900円であった。

第４章　有価証券　答案用紙

問題4-1

	借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
①				
②				

第４章　有価証券　解答解説

問題4-1　**解答**

	借方科目	金　額	貸方科目	金　額
①	有価証券評価損	6,000	有　価　証　券	6,000
②	有　価　証　券	35,000	有価証券評価益	35,000

問題4-1　**解説**

①　帳簿価額より時価が低い場合には、その差額を「有価証券評価損」勘定（費用）に計上します。なお、「有価証券評価損」勘定（費用）の金額は以下となります。

有価証券評価損：(帳簿価額@6,000－時価@5,800)×30株＝6,000

②　帳簿価額より時価が高い場合には、その差額を「有価証券評価益」勘定（収益）に計上します。なお、「有価証券評価益」勘定（収益）の金額は以下となります。

有価証券評価益：(時価@4,900－帳簿価額@4,200)×50株＝35,000